普段着のわたしたち

皆様、はじめまして。やっさんと申します。今回から参加をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いします。

最近、朱印をはじめようと思い立ち、形から入る性格の私は色んな筆ペンやキラキラの書道液を揃えて満足に至ってしまいました。この癖は、物心ついた時から変わりません・・・。

昔々、一世を風靡したインスタントカメラ『写ルンです』。また最近流行っているのだそうです。

先日、鉄道博物館へ出かけた際に、息子に持たせてやろうと思いコンビニで購入しました。「写真はスマホで撮ってタブレットで見る」という概念の息子（8 歳）は、不思議そうにしつつも、「パチッ！パチッ！」と撮影していました。

現在、コレの現像方法は、以前の通り紙に焼く方法もありますが、本体を持ち込む（送付する）と、データ化して数日でスマホやパソコンに転送してくれます。

久々に、撮った映像を日数を経て楽しく見る、という懐かしさを感じました。

訶梨帝母

『友引町内会通信』をスマホでお読みいただくには、http://www.daigoji-temple.jp/「友引町内会通信」をクリック。　寺務局

今年はへちまがたくさん出来ました。ここまで良い出来は初めてです。しかし理由がわからないので来年も同じようにできるわけではありません。

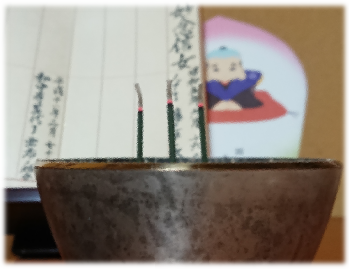
農業の難しさを痛感します。　征阿

最近、台所で重宝しているのが、「ホットサンドメーカー」の直火にのせるタイプ。

ホットサンドも作るけど、フライパンの代わりに使っている。一人分だとこれが便利。写真は、今が旬のサーモンを焼くところ。サーモンに塩コショウをふり、その上にバターとレモンの輪切りとキノコをのせ蓋をして中火から弱火で焼くだけ。焼くというより蒸し焼きという感じ。普通だとアルミホイルに包んでオーブントースターで焼くのだけど、こちらの方が手間いらず、早い。「とろけるチーズ」をのせても美味しそう。私は焼きあがった時に醤油を垂らすのが好みだけど…。　俊徳丸

15 世紀に建てられたフランスのルフォン聖母教会、ここが発祥の地であるチーズを日本に居て味わえます。修道士が自給自足の生活の足しにチーズを作って売ったのは、雑用係を雇い、より多くの静謐な祈りの時間を確保するため。見習いたい。　迷走ボー

ふたりの先祖



我が家の佛壇には、日付け入りの過去帳が飾られている。毎朝その日に合わせてページをめくり、灯と線香をお供えして、命日のご先祖さまにお念佛を称えることが日課となっている。

ある日、過去帳に記載してあるご先祖さまの一人が目に留まった。

命日は昭和５年、19歳で他界しておられる方だ。続柄には曾祖父母の次女とある。そういえば同じ年代でもうひと方いらっしゃったと思い立ち、過去帳を手に取る。命日は大正13年、15歳で他界しておられた。続柄は曾祖父母の長女である。

これまで手を合わせてこなかった訳じゃない。お位牌があったし、月命日には戒名を読み上げていたからだ。けれども、父母や親戚の方から何も話を聞いたことがなかったし、年代的に顔を合わせることもないから、いまいちご先祖さまであるという実感には乏しかった。思っていたことといえば、「若くして亡くなられていたのだな。曾祖父母は悲しかったろうな」といった月並みな思いだけだった。

この時、なぜか私は気になって仕方がなく、居ても立っても居られなくなっていた。ふと、以前過去帳を作るために取り寄せた戸籍謄本が実家にあったことを思い出し、何か分かることがあるかもしれないと逸る気持ちで車を走らせた。

これまで戸籍謄本を熱心に見たことはなかったが、その時初めて気付いたことがあった。

曾祖父には過去帳で目に留まった二人の女性しか実子がいなく、私が祖母と認識していた方は、他家から養子に迎えていた方であった。そして祖父を婿にし、父が生まれている。つまり、法定的な血族に違いはないが、曾祖父母と父、私とは血縁関係がなかったのである。

ここでもう一つ気付いたことがあった。

曾祖父母の実子である二人の女性が、もし亡くなっていなかったとしたら、おそらく私はこの世に生まれていない。また、今の姓を名乗ることもなかっただろう。

そう。父は他家から養子に迎えた祖母と、婿に入った祖父から生まれている。曾祖父母の実子が生きて子どもを産んでいたら、祖父母にはまた違う人生があった筈だ。

気付けば、私は実家の佛壇の前で手を合わせていた。血縁はないにしても、血のつながりがある二人の命があって、今、私の命がある、理屈抜きでそう思ったからであろう。

住まいに帰り、佛壇の前に座って、もう一度手を合わせた。

顔を合わせたことはないし、話を聞いたこともない。思いを聞くことも出来ないし、人柄も分からない。それでも、若くして他界した二人の人生が私の人生としっかり繋がって、前よりもずっと近くで見守っていてくださる気がした。

やっさん

パタカラ体操

長く続いたコロナ禍に加えて、蒸し蒸しと長引いた夏のせいで、すっかり引きこもってしまい鬱寸前だった老婦人の一推し体操。お月参りに伺った際に

「あら、あなたご存じないの？教えてあげますからやってみましょうよ！」と圧強めにお勧め頂きました。コレのおかげか秋天のせいか測りかねますが、すっかりお元気に復活しておいでした。

パタカラ体操とは、口腔体操です。口周りの筋肉を鍛え、噛む力、飲み込む力を向上させ、誤嚥を防ぎ、だ液の分泌を促し、更には表情を豊かにする効果が期待されるのだとか。さあ、皆様もご一緒に。パパパパ、タタタタ、カカカカ、ララララ。

ただ口に出すのではなく、これを発声発音する意味を理解すると、より効果的。

「パ」は口をしっかり閉じて発音する事によって、食べこぼしを防ぐことができるかも。

「タ」は舌が上あごにくっつくように発音。食物をしっかり押しつぶし、飲み込む力を維持できるかも。

「カ」は喉の奥を意識して力を込めて。誤嚥を防ぎ、誤嚥しても吐き出す力を養うことができるかも。

「ラ」は舌を丸めて発音。舌の動きを維持できるかも。ゆっくり、大きな声で、はっきりと。慣れてきたら少し早めに。

こもりうた83

三十代の五、六年間、声楽を習った事があります。オペラ歌手を目指したわけではないので、発声、発音、日本歌曲を少し学びました。

「パンクしたように激しくパ～、啖呵をきるようにタ～、噛み付くようにカ～、巻き舌寸止めのラ～、モヤっと歌うな！客席の遠くまで届くようにハッキリと！」と先生のピアノで追い立てられるレッスンでした。そして先生は、「こうして鍛え上げておくと、胃カメラ飲む時ラクよ～、声楽家は喉や舌を鍛えてある上に、コントロールもできるからスルスル～って感じ」と仰せでした。内心「いや、そのためにレッスンに通っているわけではないのですが・・・」と思いましたが、今は、あの時私は「パタカラ体操」を体得していたのだと承知しています。

十一月九日、瀬戸内寂聴師が九十九歳でご逝去されました。「百の少し前で逝けるといいわね」とおっしゃっていましたがその通りに。生涯現役、肉食、飲酒。寂聴師のパワー溢れるご生涯にわずかでも近づけるように「パタカラ体操」を継続いたしましょう。

来年も皆様どうぞお健やかに過ごされますよう祈念申し上げます。

『パタカラ長文』

パンダの宝物はパパパンダからもらったラッパ、歩いてパタパタ鳴らしてパラパラ、高かったラッパで財布の中は空っぽ

訶梨帝母

↓我が町の広告兼、（今月号のタイトル）

私が住んでいる笠松の町に、今から80年程前の昭和13年 3 月31日の夕飯時に、比較的大きな隕石が落ちて来た。瓦屋根、天井を突き破り床に落ちたそう。落ちたばかりの頃はまだ熱く火事にならなくてよかった。それを聞きつけた当時10歳の父はそれをすぐに見に行ったそうだ。生前中に何回かその話をしてくれて、余程印象深かった出来事だったようだ。当時の父や世間の人も、「隕石」の知識がある人は少なかったであろうと想像できる。だから、摩訶不思議な事件として話題になったのだろう。ただ父の話では、落ちたそのおウチが「漬物屋」を営んでおられたということから、「えぇ、それを漬物石にしたぁ、」という落ちのついた作り話だと私が思い込んで今日まで至った。その新発売日に「隕石最中食べた。」という Facebook が届き、その時に初めて本当に漬物屋に落ちたことを知ることとなり、父が言っていたことは嘘嘶ではなく、悪かったと反省した。

ポスターの「隕石最中」は、町内にある7軒の菓子店が集まり約1年試行錯誤を重ね開発し商品化し各店舗で購入できる。更に、各店舗が得意分野を生かし隕石をモチーフにしたオリジナルスイーツを開発し、スタンプラリーをしつつ、食べ比べの楽しさを提供している。

ちなみに各店舗自信作の「隕石スイーツ」は…

① 隕石ミルクまんじゅう／170円
② 隕石あげまんじゅう／150円
③ 隕石クッキーまんじゅう／160 円
④ 隕石せんべい／ 160 円(1袋 40g)
⑤ 隕石竹炭ホイル焼き／160円
⑥ 隕石どらやき「炭どら」／180 円
⑦ 隕石シュークリーム／270 円

※どれも食べやすい一口サイズ。

町内の住人の中には、「ただ真っ黒なだけでどうかなぁ。」いう低評価もあるようだ。私はそう思わない。「良いお菓子」というものを考察してみたい。秋の季節に柿の実そっくりな和菓子が出てきたとしょう。見た目は繊細で美しいが「柿」以外の何物でもない。その点、隕石菓子はどうだろう。パッケージを剥がされ出てきた黒い物体を見た時に、「これはなんだ！ゴリラのうんこか！？、こちらは石炭で作ったゴルフボールか！？」などと、食べる人に「想像」するひと時を提供してくれのが「良いお菓子」の定義だと思うからだ。

私も隕石菓子を早々に購入して、亡き父の位牌にお供えしなければならない。　俊徳丸

『私説法然伝』（８２）

法然がくる⑨

先月号では法然がくるということで、九条兼実について書きました。今月号はその続きについて書きます。

【文治三年（一一八七年）九条兼実は精力的に政務に励んでいた。頼朝の意向を汲んだ親鎌倉派公卿らと共に朝廷を動かし、後白河帝によって廃止されていた記録荘園券契所（記録所）を復活させ自らの管轄下において朝廷業務をそこに集中させて実権を握った。その甲斐もあって貴族社会は安定を取り戻していった。翌年には氏の長者として一族を引き連れて春日大社へ参詣している。藤原摂関家にとって再び良い方向へ向かっていると、この時には確信が持てたであろう。しかし将来の希望であった嫡子の内大臣良通卿が急に逝去する。亡くなる前日にも会って話をしていたにも関わらずの急逝である。兼実の落胆ぶりは想像に難くないものがあるが、翌年には娘の九条任子を入内させて後鳥羽帝の中宮（正妻）に擁立に成功することでその悲しみを振り切ることになった。

建久元年（一一九〇年）ついに鎌倉の頼朝が上洛する。すでに奥州藤原氏を族滅させての上洛であり、後顧の憂いを全て取り除いての上洛であった。兼実と頼朝の会談はこの一度きりであったが、この後は両名の協力体制によって、東国と西国の一種の調和体制となる。ただ「治天の君」は後白河帝である。チェックメイトは確定していても、それでも頼朝が如何ともし難い事が一つだけある。それは「治天の君」というもの、つまり後白河帝とは帝、そもそもが「天皇」という「王」の中の「王」、古の言葉で「大王」（大君）であった。海内統一という偉業を成し遂げたと頼朝は誇っても、古来より続く伝統や秩序を兼実が重視しても、唯一にして絶対的な最終的な秩序は「天皇」である。頼朝や兼実がどれほどの力をもってしても、天皇の勅命（大御言）が最も重く広いものであった事は覆せない。それを覆すには頼朝は「中央」の権威を使うべきではなかったし、兼実は「朝廷」の中で生きる者として、その重要性は誰よりも知っていたはずである。後白河帝は頼朝に権大納言・右近衛大将の地位を授けた。つまり以前にも書いた通り「武家の棟梁」としてのありとあらゆる権限は認めたが、それ以上の存在ではないという峻烈なメッセージがある。頼朝は任命から十日後にそれを辞職し鎌倉へ帰還する。ただし任官された「事実」を使って鎌倉において建久二年（一一九一年）政所という統治機関を使い御家人たちに所領の安堵と恩給を与えている。つまりこの時点では鎌倉は法的秩序としてまだ「中央」の支配体制下である事でもあった。

兼実もまた後白河帝との関係は非常に緊張感のある状態が続いていた。朝廷はほぼ兼実らによって動かされ業務を行っていたが、兼実の求める「秩序」に反発する反兼実勢力と後白河帝の力は決して消える事がなかったのである。だが時代はまた新たな局面を迎えるのである。】

以下次号に続く（征阿）

佛様には専門性がある

歳を重ねますと年々貯金は目減りし、増えるのは医院の診察券。我が国は臓器の専門医の育成に熱心で、総合内科の医師が少ないからでしょうか。

佛様の中で総合内科の名医は、浄土宗では阿弥陀佛、真言宗では大日如来でしょう。「佛」や「如来」は覚りの位に就いた方で、病院ですと院長。

当山には、阿弥陀佛と大日如来という院長クラスの佛様がお二方もおられます。

「えっ、喧嘩しないの？」

そんな事をすれば修羅道に堕とされます。

千手観音のような「菩薩」様をご本尊としてお祀りするお寺がたくさんあります。佛の位とほぼ同等ですが、我々衆生を救うのが忙しく、覚りを得るより菩薩の位に留まっておられるのです。病院ですと、部長クラス、次期院長でしょう。

その他に専門医というべき佛様がおられます。七福神でお馴染みの大黒天、毘沙門天、弁財天などはインドで崇められていた神様で、佛法を護る存在として取り入れられ「天部」の佛様となったのです。

我が宗では、「全ての佛様は阿弥陀佛に収まる」として、佛様の専門性を余り語りません。しかし、願いを持つ人の立場に立てば、病気平癒と商売繁盛では受け持ちが違うのではと考えて当たり前。

そこで、如来以外の佛像も一体づつ修復してきました。その結果どうなったか？

来年は寅年。虎に縁のある佛様が三体揃いました。鐘楼門で伽藍全体を護る韋駄天は虎皮の襟巻をしています。「虎は一日で千里往って千里還る」と云われる動物。足の速いことで有名な佛様にピッタリです。

大日堂におられる多聞天は四天王の一員ですが、一体でお祀りする際は毘沙門天と呼ばれます。元々は、古代インドの財宝の神（施財天）が中国で武勇の神にへ～ンシンしたのです。

そのお使いが虎で、戦国武将の上杉謙信が毘沙門天の「毘」の字を旗印にしたことはご承知の通り。「寅年生まれは運が強い」という民間信仰が生まれました。

本堂脇壇にお祀りする虚空蔵菩薩は、寅年生まれの方の一代守り本尊。その智慧と福徳は虚空の如く広大であるという意味で、「智慧授け」の佛様として無限の記憶力を授けるとされています。

健康で財運に恵まれ、智慧を授ける佛様を三体お祀りしています。来年一月一日が寅年の寅の日。どうぞ強運をお引き寄せください。でも、寅の刻（午前四時）にお参りになるのはお控えください。

当山では、それぞれの病（願い）に応じて担当医（佛様）をご紹介しています。ご心配なく、検査漬けにして、検査料だけで少ない国民年金が飛んでしまうような目に遭わせたりは致しません。　迷走ボー